

# 個人への最適化とパフォーマンスの最大化を実現する新たな学習手法



コンテンツだけにアクセスできる。これがマイクロラーニングの基本的な概念だ。

## 「個人が主役になる」のがマイクロラーニング

マイクロラーニングの登場と浸透の背景には大きく2つの要素がある。1つは技術革新が知識・行動のデジタルデータ化を進めたとともに、そこへいつでもアクセスできるオンライン状態が我々の日常になったこと。

2つ目は、従来型の教育の変質だ。近年、大学等では講師が一方的に知恵を授ける形に代え、グループディスカッションや自主的リサーチの比重が高まっており、主体的な学習に適應する若年層が増えている。一方、通称OJT型学習の有効性が薄れてきていて、その対極となるのがマイクロラーニングの

8年に発足したマイクロラーニングコンソシアム（MLC）の代表理事も務める川口氏から、「教育のデジタル化とマイクロラーニングのインパクト」と題し、その概要や実践・活用法などが語られた。

## M LCでは、マイクロラーニングを「テクノロジーを活用し、マイクロコンテンツにより知識や行動を定着させる手法」と定義している。マイクロコンテンツとは、知識やスキルを細分化しデジタルデータ化したもの。それらを学習ライブラリとしてオンライン上にまとめておくことで、学習者は自分の必要なときに、自分に必要な

身に付けたい場合、その習得に欠かせない行動プロセスとして「メリットの整理」「反論への対応」といった要素が複数思い浮かぶ。深掘りすれば、その行動を起こすのに必要な「オープン／クローズド質問」「相手に共感する力」といった細かなスキルが必要だと気付くだろう。このようにテーマを細分化すれば、学習コンテンツは際限なく作ることが可能だ。

ある国内製薬会社のMR（医師と折衝する営業担当者）向けの事例では、「毎朝3問、商品知識クイズに答える」と決め、継続的に学習させるスタイルを採用。習慣化したことから自発的な復習が進んだ。結果、飛躍的に営業成績が向上した。「学習コンテンツが小さく負担が小さい」という学習者の声と合わせて、「学習行動が蓄積されていくので人事評価につなげやすい」と、企業側からもメリットを実感する声があがっている。

学習者である個人からすれば、自分が学びたい分野の、小単位の継続しやすい学習でスキルアップを目指せる。導入する企業にとっては、従業員の意識・行動の定着化促進、教育研修におけるコストパフォーマンスの改善と生産性向上、ひいては業績アップにつながる。

マイクロラーニングの世界市場規模は、現在の150億ドルから24年には270億ドルにもなる予測されている。DT革命のスピードに乗じ、国内でも急速に広まっていくだろう。

セミナー第2部では、サイコム・ブレインズ株式会社の川口泰司氏が登壇。講演テーマは今夏に日本経済新聞1面のコラムでも取り上げられ、同記事内で「時代の変化に則した学びのスタイル」と川口氏が称した「マイクロラーニング」だ。

マイクロラーニングとは、教育研修分野における新たな学習メソッドで、特に金融・製薬・IT業界など、高い専門知識・スキルを要する営業担当者向けに導入が広がっている。201

は集合研修やeラーニングに強みがある。そこでマイクロラーニングは組入れ方が重要になる。例えば、従来型の学びを入口に、マイクロラーニングで知識・行動を反復・定着させ、動機付けやノウハウの交換といったオフライン活動で補完する。こうしたハイブリッド型の教育研修が普及していくだろう。

## 学習者にも導入企業にも効果の大きいメソッド

マイクロラーニングの中身はどう作るか。例えば「提案力」

位置付けといえる。

ただ、デジタル技術を活用した学習プラットフォームとしてはeラーニングが周知・運用されている。加えて、集合研修などの従来型のオフライン学習にしかない意義は変わらない。なぜそれらに加えてマイクロラーニングが求められているか。

マイクロラーニングの本質は個人が主役となることにある。与えられたテーマを体系的に1から順に時間をかけて学ぶeラーニングとは違い、テーマを問わず、順序を気にせず必要な細目だけを短時間で学べるのがマイクロラーニングのメリットだ。またPC前での学習が必須の前者と異なり、スマホでいつでも・どこでも手軽に学べる。

このように学習者＝個人に合わせた学びを適時適切に供給できることが、教育研修の個人への最適化、そしてパフォーマンスの最大化を実現する。当然、初めて学ぶ分野などで



## かわぐち・やすし

サイコム・ブレインズ(株)取締役最高デジタル責任者、マイクロラーニングコンソシアム代表理事。アップルコンピュータ等を経て1997年に独立、eラーニング事業でメガバンク、自動車メーカー等へオンライン教育プログラムを開発。現在は教育研修のICT化や、マイクロラーニングの第一人者として講演活動も行う。